神奈川県

教育委員会

平成 29 年度 小学校・中学校における

手話に関する取組事例集

平成 30 年３月

神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課

はじめに

手話の普及推進を通じて、県民みんながお互いを大切にし、支えあう社会を実現したい。その理想を掲げて平成 27 年４月１日に神奈川県手話言語条例が施行されました。

そして、この趣旨に則って、平成 28 年度から 32 年度までの５年間を計画期間とする「神奈川県手話推進計画」が策定されました。

これを受け、県教育委員会では、児童・生徒の手話の学びの充実、教員向けの手話研修の充実など、手話を学ぶためのしくみづくりに取り組んでいるところです。

本事例集は、平成29年度に県内各学校で取り組まれた実践を、資料を提供していただいた学校の協力の基に作成しました。様々な活動をとおして取り組まれている手話の取組事例を参考に、各学校の実態に応じた手話に関する取組の充実を検討くださるようお願いします。

結びになりますが、手話の学習をとおして、児童・生徒がお互いを大切にすることに気づき、支えあう関係を実現できるようになること。また、そうした理想に向けた取組の積み重ねにより、一人ひとりが互いの個性を尊重し、自らの人生や社会をよりよいものにしていくことができるという実感がもてるようになることを願っております。

神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課長

県内市町村の実践事例集　目次

◇小学校

＜国語科＞

・「だれもが関わり合えるように」（横浜市立平戸台小学校）・・・・・・・・１

＜生活科＞

・「楽しかったね１年間」（相模原市立大野台小学校）・・・・・・・・・・・・２

＜音楽科＞

・「あつまれ　おんがく　なかま」（葉山町立一色小学校）・・・・・・・・・３
・「心をつなぐ」（川崎市立片平小学校）・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
・「たんぽぽ」（鎌倉市立山崎小学校）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５

＜総合的な学習の時間＞

・人権教育活動「福祉学習～手話教室～」（横浜市立浜小学校）・・・・・・・６
・「やさしい南野川の町に」（川崎市立南野川小学校）・・・・・・・・・・・７
・「福祉体験教室・手話体験」（相模原市立くぬぎ台小学校）・・・・・・・・８
・「手話歌ワークショップ」（川崎市立渡田小学校）・・・・・・・・・・・・９
・「福祉：やさしさ広がれ、衣笠小！」（横須賀市立衣笠小学校）・・・・・10
・「ふくしって何？」（横須賀市立追浜小学校）・・・・・・・・・・・・・・11
・（福祉）「手話を覚えて伝えよう」（伊勢原市立緑台小学校）・・・・・・12
・「共に生きよう」（大井町立上大井小学校）・・・・・・・・・・・・・・・13
・福祉体験学習「手話講座」（湯河原町立湯河原小学校）・・・・・・・・・・14

＜特別活動＞

・「人権教室」（横浜市立上菅田小学校）・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
・「一年生をお祝いする会」（葉山町立一色小学校）・・・・・・・・・・・・16
・「手話教室」（愛川町立田代小学校）・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
・「手話教室」（藤沢市立小糸小学校）・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
・「手話教室」（大和市立柳橋小学校）・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
・（学校行事）「ＨＡＮＤＳＩＧＮ学校公演企画」（平塚市立大原小学校）…20

＜課外活動＞

・パワーアップタイム「手話ソングを歌おう」（横須賀市立諏訪小学校）・・21

◇中学校

＜道徳＞

・「全校道徳」（南足柄市立岡本中学校）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

＜総合的な学習の時間＞

・「福祉文化祭へ向けた取組（三浦市立初声中学校）・・・・・・・・・・・・23
・福祉体験「手話」の学習（横須賀市立久里浜中学校）・・・・・・・・・・・24
・「福祉体験」（横須賀市立大矢部中学校）・・・・・・・・・・・・・・・・・25
・福祉体験～手話体験コース～（厚木市立玉川中学校）・・・・・・・・・・・26
・「福祉体験」手話グループ（平塚市立山城中学校）・・・・・・・・・・・・27
・福祉（手話教育）について（相模原市立大野台中学校）・・・・・・・・・・28

＜特別活動＞

・学級活動「福祉教室」（秦野市立鶴巻中学校）・・・・・・・・・・・・・・・29
・福祉講話「手話」（大和市立光丘中学校）・・・・・・・・・・・・・・・・・30
・福祉委員会「できることを『今』やろう」（川崎市立南大師中学校）・・・31
・学校行事「地域交流体験学習」（真鶴町立真鶴中学校）・・・・・・・・・・32

＜部活動＞

・手話部（横浜市立岡野中学校）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33

＜課外活動＞

・「手話教室」（相模原市立内出中学校）・・・・・・・・・・・・・・・・・・34

国語科
「だれもが関わり合えるように」

横浜市立平戸台小学校

単元（題材）目標
○関心のあることから話題を決め、調べたことを理由や事例などを挙げながら筋道を立てて工夫して話すことができる。
○話の中心に気をつけて聞き、質問したり感想を述べたりすることができる。

（1）実施時期　　9月7日～26日

（2）対象（学年等・人数）　第4学年1組　39名

（3）指導者（教諭・外部講師等）　　担任1名

（4）実施内容

教材　　「手と心で読む」（光村図書）

指導計画

①……「関わり合う」というめあてについて話し合い、点字や手話を体験する。
②……資料「手と心で読む」を読み、学習計画を立てる。
③④……クラスの人に伝えるという目的で、テーマと調査内容を考える。
⑤⑥⑦…調査メモをとりながら計画に沿って調査する。
⑧⑨⑩…情報を分類整理し、発表原稿にまとめる。
⑪⑫⑬…聞き手を意識した発表を工夫し、感想交流をする。
⑭⑮……発表会を行い、学習の振り返りをする。

児童の課題　・普段使う手話　・手話の歴史　・ローマ字の手話や数字の表現
・気持ちを表す手話　・味はどうやって伝えるか　・手話のなりたち等

内容と感想
○夏休みに福祉体験に参加して興味をもったので、調べてみた。
○耳の不自由な方に「危ないですよ。」等と教えてあげたいから選んだ。
○「うれしい」は胸が躍っている様子で表し、「かなしい」は涙が落ちる様子。
○見つめ合うことから始まり、お互いに分かり合おうとすることが大切だ。
○顔の表情や体を動かしたりする手話は、心のこもったパフォーマンス。
○手話と口を同時にはっきりと動かして、ボールを投げて返すようにする。
○手話は目で見る言葉。もっとたくさんの人が手話を知れば、耳の不自由な方や話すことができない人の暮らしがもっとよくなると思う。

（5）成果

まず、身の周りの洗濯機やシャンプーの容器などにある小さな点から、子どもたちは興味・関心をもち、聴覚障がい者に寄り添って考える機会を得ました。どのようにして聴覚障がい者に危険を知らせるか、自分の名前を知ってもらうか、手話の資料から解決方法を導き出そうとしていました。発表に向け、手話の練習に励んでいましたが、多くの子どもたちが手話の形ではなく、心で繋がることの大切さを感じ取っていたと思います。

生活科
「楽しかったね１年間」

相模原市立大野台小学校

単元（題材）目標

○自分の成長を振り返り、できるようになったことがわかり、これからの成長への願いをもって意欲的に生活することができる。

○手話について調べる活動を通して、障がいのある人々への理解を広げ、思いやりの気持ちを持たせる。「手話付き校歌を伝えよう」

（１）実施時期

２月～３月

（２）対象（学年等・人数）

第１・２学年　173 名

（３）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭　第１・２学年担任教諭

（４）実施内容

○新２年生が入学式で、新１年生に手話をしながら、校歌を披露する。

○２年生で実行委員を開き、手話について調べて、教える計画を立てる。

○２年１組→１年１組というようにペアの組を作り、教える。

（５）成果

○校歌の意味を知ることができる。

手話にはそれぞれの動作に意味がある。それを確かめながら行うことで、歌詞の内容がしっかり理解できるようになる。

○進級に向けての意欲が高まる。

２年生は１年生に教えることで、先輩としての気持ちが高まる。１年生は、入学式で披露することで、昨年の入学式を思い出し、小学校生活が１年たったことを知る。

○伝統を受け継ぐ。

毎年入学式で行っていることなので、自校の校歌の内容を知り誇りに思う。

（６）その他

○異学年で交流することにより、上級生としての自覚や進級への希望が生まれた。

○手話について学ぶことで、障がいのある人々への理解を広げることができた。

音楽科
「あつまれ　おんがく　なかま」

葉山町立一色小学校

単元（題材）目標
○拍の流れや曲の気分を感じ取り、体を動かしながら楽しく歌う。

（1）実施時期　　1月

（2）対象（学年等・人数）　第２学年２組　29名

（3）指導者（教諭・外部講師等）　音楽専科教諭

（4）実施内容

○「さんぽ」の拍の流れや曲の気分を感じ取り、行進したり手拍子を打ったりするなど、体を動かしながら歌う。

○手話を使って歌う。

・手話は、手を使って考えや気持ちを伝える「ことば」であることを知る。
・歌詞の言葉を手話で表す。
・チームに分かれ、見合う。よく伝わってきた表現などを伝え合う。

（5）成果

はじめは、歌詞の言葉一つひとつの手話にとらわれがちだった。しかし、フレーズごとに、リズムや旋律の流れにのせて手を動かし歌っていくうちに、次のような変化が見られた。

・歌詞「くさっぱら」の「草の生えている様子が広がる」という手話を、大きく広がっていくような動作で生き生きと表現をするようになる。
・歌詞「くだり道」の手話を、旋律のもつ勢いにのせて表現するようになる。
・歌詞「くもの巣くぐって」の友だちの表現を見て「すごく、くぐっていく感じがしてよかった。」という児童の発言が多く聞かれた。なにげなく歌っていた歌詞が手話によってイメージしやすくなり、そのイメージが共有され、より楽しい表情で歌うようになった。

手話で歌う学習を通して、各々の言葉に対応する手の動きができるようになるだけでなく、手に気持ちを込め「伝える」という表現力が育まれた。

音楽科
「心をつなぐ」

川崎市立片平小学校

単元（題材）目標

〇歌を通して手話を学び、歌いながら手話をすることで、手話への関心を高める。

〇友達と一緒に楽しみながら、手話に親しむ。

・教材「友だち」（新しい友達との出会いをテーマにした曲。友達賛歌。）

（１）実施時期　　４月初旬

（２）対象（学年等・人数）　　第３学年　３クラス　120 名

（３）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭　　各担任　３名　　音楽専科　１名

（４）実施内容

① 学年当初のオリエンテーションとして

・コミュニケーションの手段の一つである手話を学び、それを使うことは、ハンディキャップを補うだけでなく、人間関係を豊かにするものであることを理解させる。

② クラスの愛唱歌として折にふれて

・年間を通して、朝の会やクラス集会で歌えるものとする。

③ 思いを伝える手段として

・手話だけでなく、相手の国の言語を学ぶなど様々な方法で意思が通じることを紹介する。（韓国人の講師に向けて韓国語の歌を歌ったり、スペイン語圏の転入生と一緒にラテン語の曲を歌ったりした。）

（５）成果

〇コミュニケーションの手段として、手話について関心をもつことができた。

〇相手に思いを伝えるには、まず、相手の得意な言語（手話、相手の国の言語、筆談等）や相手の文化、相手の思いを知ることも大切であることを理解した。

（６）その他

今後も、様々な人々との交流の機会に、音楽で学んだことを生かして、豊かなふれあいの中で、学習を深めていきたい。

音楽科
「たんぽぽ」

鎌倉市立山崎小学校

単元（題材）目標
○歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌う。
○互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う。

（1）実施時期　　２学期

（2）対象（学年等・人数）
第３学年　110 名

（3）指導者（教諭・外部講師等）
音楽専科教諭、第３学年担任　１名

（4）実施内容
○「たんぽぽ」の歌詞の内容や気持ちを想像し、曲想にふさわしい歌声を工夫しながら歌う。
○「たんぽぽ」の歌詞の一部を手話で歌う。
○校内音楽会で全校児童、保護者に披露する。

（5）成果
○言葉以外に、手話というコミュニケーションツールがあることを知ることができた。
○歌詞の一部に手話を付けて歌うことで、手話に気軽に親しみ、身近に感じることができた。
○身体表現の一つとして手話を交えながら、歌を楽しむことができた。また、手話で表現することにより、歌詞の意味をより深く感じ取ることができた。
○わかりやすい内容の歌詞と手話であることから、子どもたちも覚えやすく、親しみやすかった。
○毎年、３年生が手話付きの歌を校内音楽会で披露することにより、下級生が来年は自分たちも手話をやってみたい、できるという憧れや見通しをもつことができる。

総合的な学習の時間
人権教育活動
「福祉学習～手話学習～」

横浜市立浜小学校

単元（題材）目標

○自他の存在を認め、見方や考え方の違いから学び合い、よりよい生き方をつくっていくことができる子を育てる。

（１）実施時期　　３月上旬

（２）対象（学年等・人数）

第３学年　76 名

（＊本校では、毎年３年生が、この学習を行っている）

（３）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭　　第３学年担任　２名

外部講師　　ふれあいサークル「かめ」６名、社会福祉協議会職員１名

（４）実施内容

①講演会「聴覚障がいについて」（学年全体）

・どなたでしょうクイズ～聴覚障がいの方と通訳の方が並び、どなたが聴覚障がいの方かを当てるクイズをする。

・聴覚障がいの方が日常で困ることや、周りの方々にしてもらうと嬉しいこと等の話を聞く。実際に「物を落としたとき」の場面のロールプレイを行う。

・聴覚障がいの方が日常生活で使っている生活道具の紹介をしていただく。

②手話体験（各学級でいくつかのグループに分かれて手話を教わる）

・各学級３名ずつ（聴覚障がいの方や手話通訳の方）

・簡単なあいさつ（おはよう、こんにちは等）、学校・校長先生・自分の名前、好きなスポーツや食べ物等　・指文字による五十音の表し方　・ペアで覚えた手話を披露し合う

③児童による歌のプレゼント

・音楽の学習で学んだ「さんぽ」の歌に手話を交えて、感謝の気持ちを込めて、披露する。「さんぽ」を披露することになった経緯は、この体験学習をすることを子どもたちに伝えた時に、1 年生の時の音楽で学習した手話を交えて歌った「さんぽ」の曲を思い出し、『やってみたい！』という子どもの思いから、披露したものである。

（５）成果〈子どもの学び〉

○見た目では、気付きにくい障がいであることを理解することができた。

○外部講師に話を聞き、実際に聴覚障がいの方から思いを聞くことにより、自分ができることに気付き、肩をたたいたり、口の動きがわかるようにゆっくり話したり、できそうなことをやってみようという気持ちをもつことができた。

○手話に興味をもち、手話で簡単なあいさつや自己紹介をすることができた。

（６）その他〈子どもの感想〉

○（音や声がわからないので）呼びかけてもそのまま行ってしまう時は、とんとんと肩を叩いたり、前に回って話したりすると、うれしいということがわかりました。もし、ホームとかでそういうことがあったら、してみたいと思います。

○自分の名前や好きなことを手話でできるようになって、うれしかったです。

○手話を教えてもらって、楽しかったです。ほかの手話もできるようになりたいです。

○耳の不自由な方が朝起きるときに、どのように起きるのか不思議だったので、生活道具を実際に見て、驚きました。

○「さんぽ」を披露して、最後にみなさんと一緒に手話で歌えて、楽しかったです。

総合的な学習の時間
「やさしい南野川の町に」

川崎市立南野川小学校

単元（題材）目標

○体験学習や介護施設交流を通して、自分の身の回りには様々な人がいることを知り、相手のことを考えて接していける態度を身につける。

（1）実施時期

９月 27 日（水）

（2）対象（学年等・人数）

第４学年　75 名　学校教員　２名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：２名

外部講師：市内ボランティアサークル「手の花会」４名

（4）実施内容

①講演「聞こえないってどういうこと？」

・学校名を手話で表す

・ろう学校の説明（みんなの学校との違いなど）

・日常生活の様子、災害時のお願い

・もし、困っているろう者を見かけたら（寸劇）

②各クラスで体験学習

・３人１組でコミュニケーションを体験する

（　口話・身振り・空書・指文字　）

・手話を使ってみる

・質問の時間

（5）成果

○実際にろう者の方に来ていただいたことで、日常生活の様子やろう学校の話を聞くことができ、児童のろう者に対する「大変そう・苦労が多そう」という後ろ向きなイメージを「とても前向きに生活している・手話ができてすごい」という前向きなものに変えることができた。

○本やＤＶＤだけでなく、生きた手話を学び、楽しく学習することができた。

（6）その他

体験学習の事前、事後に調べ学習の時間を設定した。

総合的な学習の時間
「福祉体験教室・手話体験」

相模原市立くぬぎ台小学校

単元（題材）目標

○様々な立場の方について理解を深め、お互いを尊重できる思いやりの心を育てる。
○自分の思いや考えを伝える手段には手話があることを知り、障がいについて関心をもち、理解を深める。

（1）実施時期　11 月中旬

（2）対象（学年等・人数）　第３学年　61 名　学校職員　３名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

外部講師：相模原市社会福祉協議会「みんないい人体験教室」
講師　６名（聴覚障がいの方　２名、手話サークルの方　４名）

（4）実施内容

①講話：「聴覚障がいについて」（手話グループ　21 名　１時間）
・先天的な聴覚障がいのある方と中途失聴の方から話を聞く。
・聴覚障がい者が困ることや生活での工夫について（手話通訳あり）。

②手話体験：（手話グループ　21 名　１時間）
・手話グループ 21 名に講師６名（聴覚障がいの方２名と手話サークルの方４名）
・簡単な会話（あいさつ、自分の名前等）　・手話に関する基本的知識
・指文字による五十音の表し方
・聴覚障がい者とのコミュニケーションの取り方（口話、身振り）

◎「体験して感じたこと・思ったこと」をまとめ、「これから自分にはどのようなことができるのか」という視点から振り返った。

※相手の立場にたって物事を考えられるよう、また、共に生きていく仲間であること、困ったときに手をさしのべられるような指導を心がけた。

（5）成果

○手話が聴覚障がい者のコミュニケーション手段であることを知り、聴覚障がい者に対する理解を深めることができた。
○手話に興味を持ち、手話で簡単なあいさつや自分の名前を伝えられるようになった。

〈児童の感想　一部抜粋〉

手話は耳の聞こえない人にとってコミュニケーションの一つだと気がついた。電車が止まったときなど、耳が聞こえない人が困っていたら、手話や要約筆記や口話などで状況を伝えてあげたいです。

（6）その他

手話体験をしていないグループの児童に、聴覚障がい者のことや体験してわかったことを伝えた。また、習った手話を教えた。

総合的な学習の時間
「手話歌ワークショップ」

川崎市立渡田小学校

単元（題材）目標

〇相手の立場を考えながら、様々な立場の人と進んで関わりをもつ。

〇今の自分を受け止めながら、自分にできることを大切にして、身近な人との関わりをもつ。

（1）実施時期

９月中旬

（2）対象（学年等・人数）

第４学年　157 名　　担任　５名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

外部講師　fucchiE　（手話歌アーティスト）　淵上　卓司さん

（4）実施内容

〇今月の歌「にじ」に手話をつけて歌い、手話の意味を学ぶ。

〇外部講師作曲の歌に手話をつけて、一緒に身体を動かしながら歌う。

福祉単元「伝え合う心」の学習の中で、「困っている人の助けになりたい。」「助けになるためにどのような工夫が必要か。」「自分たちに何ができるか。」など、一人ひとりが課題をもった。そこで、実際に手話を活用して活動している外部講師と出会うことで、手話でのコミュニケーションの在り方を学んだ。

（5）成果

最初は、「手話を扱う方は、困っている人だ。」という思いをもっていた子どもたちも、講師と出会うことで「手話はコミュニケーションツールの一つなのだ。」と気づきが広がった。また、関わるということはどういうことなのかについて、改めて考える機会となり、「相手ときちんと向き合うこと」の大切さを学んだ。コミュニケーションをきちんと取るためには、眼を見て伝え合うことが大切であると気づき、今の自分にもできることがあるという自信につながった。

（6）その他

外部講師が、歌に手話をプラスする姿から、手話を使うことで関わる手段が増えることに気づき、「何かしてあげたい。」という気持ちから「自分たちもみんなが笑顔になれるように関わりたい。」という気持ちに変わり、感謝の会を開くという発想につながっていた。

総合的な学習の時間
「福祉：やさしさ広がれ、衣笠小！」

横須賀市立衣笠小学校

単元（題材）目標
○様々な障がいについての特徴や工夫を知る。
○障がいのある方の苦労や努力を知り、自分たちに出来ることを考える。

（1）実施時期
９月下旬

（2）対象（学年等・人数）
第４学年　71 名

（3）指導者（教諭・外部講師等）
ボランティアセンターを通して、視覚障がいのある方１名・手話通訳の方２名
本校教諭　第４学年所属　３名

（4）実施内容
①講演会　「聴覚障がいについて」（各クラス）
・聴覚障がいの方の生活や苦労、努力や工夫について、話を聞く。（手話通訳あり）
・どうやって、自分たちが情報や気持ちを伝えるかを教わる。（ジェスチャー・空書・筆談など）
・日常生活で用いている道具を見せてもらう。　・質問する。
②手話体験（各クラス）
・手話をする時の表情や目線、気持ちの伝え方
・簡単な手話の仕方（挨拶・拍手）　・指文字での表し方
◎　学んだこと、自分たちに出来ること、全校のみんなに伝えたいことについて、各自でふり返り、学級や学年で話し合う。
※　自分から相手に伝えようとする気持ち、相手のことを想像する気持ち、障がいがあってもなくても、思いやりと努力する気持ちを大切にする指導を心がけた。

（5）成果
○直接、話を聞くことで、聴覚障がいについて具体的に知ることができた。
○手話に興味を持ち、簡単な挨拶の仕方を覚えた。
〈児童の感想　一部抜粋〉
耳の聞こえない人は、見た目では分からない。耳が聞こえないと大変だし危ないことがたくさんある。声をかけて、気づいていないと思ったら、よく考えれば色々な方法があって、誰でも伝えられると思った。一番大事なのは、自分が伝えたい気持ちと耳の聞こえない人も会話をしたいと思っているのを忘れないことだ。

（6）その他
全校児童や保護者、地域の方にも、障がいや手話などの理解が広がるように、学んだことを「衣笠小学校ふれあいまつり」で発表した。

総合的な学習の時間
「ふくしって何？」

横須賀市立追浜小学校

単元（題材）目標

○よりよい福祉社会をつくっていくために、思いやりや助け合いの気持ちをもつことの大切さに気づくことができる。

○様々な人の生き方にふれる活動を通して、自分自身を見つめ直し、共に生きるために、自分たちにできることを考え実践しようとする。

（１）実施時期　11 月下旬

（２）対象（学年等・人数）　第４学年 23 名

（３）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第４学年担任１名　支援学級担任１名

外部講師：よこすかボランティアセンター講師２名

（４）実施内容

①講演会：「聴覚障がいについて」

・聴覚障がい者の方に、日常生活で困ることについて実体験を聞く。

・聴覚障がい者の方がどんな工夫をして生活しているかを聞く。

②手話体験

・講師（聴覚障がいの方）、ボランティア（通訳者）

・簡単なあいさつ（おはよう、こんにちは、こんばんは、ごめんなさい、ありがとうなど）

・手話に関する基本的な知識

・指文字による五十音の表し方

・手話での拍手の仕方

（５）成果

○表現の仕方が言葉だけではなく「口話・筆談・手話・表情・ジェスチャー」など様々な手段でコミュニケーションがとれることを学び、理解を深めた。

○手話に興味を持ち、２分の１成人式では手話歌に挑戦することができた。

○まとめとして福祉新聞を作ることでお互い感じたこと共有できた。

【児童のお礼の手紙より　感想】

耳が不自由な人の気持ちを改めて感じることができました。手話はその字の通り、手だけで話すことだと思っていましたが、顔も大事だと言うことが分かりました。今後も手話を練習してみたいと思います。

総合的な学習の時間
（福祉）「手話を覚えて伝えよう」

伊勢原市立緑台小学校

単元（題材）目標
○手話を使っている人たちについて知り、自分たちにできることを考える。
○手話を覚えて、みんなに伝える機会を作る。

（１）実施時期
① ２学期 … ・継続的な学習活動
② ３学期 … ・聴覚障害者協会の講師を招いての活動
・継続的な学習活動
・学習発表会

（２）対象（学年等・人数）
第４学年　53 名　２クラス

（３）指導者（教諭・外部講師等）
クラス担任
伊勢原市聴覚障害者協会の方々

（４）実施内容
① 「聴覚障がい」や「手話」について調べる
② 聴覚障がい者との交流をする
・聴覚障がいについての理解
・手話体験：各学級で手話実践
簡単な会話（あいさつ、名前等）　手話に関する基本的知識
手話における拍手の仕方
③ 学んだ事をまとめる
④ 「学習発表会」（きっずチャレンジ）で発表する〈ポスター発表〉
・手話で挨拶「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」
・手話で歌おう「ドレミの歌」
・耳の聞こえない人の日常生活（困っていること）を伝えよう

（５）成果
○活動を通して、自分たちで学ぼうとする姿勢をもつことができた。
○コミュニケーションツールとしての手話体験を通して、聴覚障がい者に対する理解を深めることができた。
○手話に興味をもち、手話で簡単な挨拶や自分の名前を伝えられるようになった。

（６）その他
学習と発表を通して、さらに覚えた手話をみんなに伝える機会をもちたいと考えるようになった。

総合的な学習の時間
「共に生きよう」

大井町立上大井小学校

単元（題材）目標

○様々な障がいについて理解を深め、一人ひとりの違いを理解し、互いを尊重できる思いやりの心を育てる。

○皆が共に幸せに暮らすことができるよう、同じ社会に生きる人間として、互いに助け合い、支え合って生きることの大切さを学び、 自分ができることを考え実践する。

（１）実施時期　11 月～１月

（２）対象（学年等・人数）　第４学年　46 名

（３）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭　２名　　社会福祉協議会　３名　　点字ボランティア　１名

日本盲導犬協会　２名　　手話サークル　３名

（４）実施内容

①社会福祉協議会の方のお話

福祉についての説明を聞き、視覚障がい、聴覚障がい、高齢者等について理解する。

②福祉について課題を決め、調べ学習を行う。

③点字教室…点字についての説明を聞き、点字を読む、打つ体験をする。

④手話教室…手話によるあいさつ、指文字による自己紹介、手話による友だちとの会話に取り組む。

⑤盲導犬教室…視覚障がいの方のお話を聞き、盲導犬との関わりの様子を見学する。

⑥手話・点字・車いす・高齢者体験…ブースに分かれ、取り組みたい活動場所へ行きそれぞれを体験する。

（５）成果

○点字や手話に興味をもつことができ、授業後に自主的に社会福祉協議会を訪ね、質問をする児童もいた。

○学習発表会では、手話を取り入れた合唱を全校児童や保護者、地域の方にむけて発表でき、達成感を味わうことができた。

○手話を身近に感じ、あいさつで手話を使うなど、日常的に取り組む児童が増えた。

（６）その他

福祉をテーマにした長期間にわたる総合的な学習の時間の活動内容の中に、手話に関する取組を位置づけた。そのため、様々な障がいのある人の思いに寄り添い、その方たちの支えとなる大切なものの一つとして、手話を捉えることができた。学習発表会の手話での合唱からは、単なる体験活動として手話に取り組んだのではなく、聴覚障がいの方に思いを伝えたいという一人ひとりの願いが感じられ、聞く人に感動を与えるステージとなった。

総合的な学習の時間
福祉体験学習「手話講座」

湯河原町立湯河原小学校

単元（題材）目標

○高齢者や障がい者など様々な立場の方のことを「知ること」「関心をもつこと」「身近なものであると感じること」など体験を通して実感する。

○だれもが関わり合えるための工夫について調べ、発表する活動を通して、自分にもできることを考え実践していく。

（1）実施時期　　1月

（2）対象（学年等・人数）

第４学年　61名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

手話サークル「心」　６名　　社会福祉協議会職員　１名

（4）実施内容

①聴覚障がい者の方の話

幼い頃に聴覚を失った方が、幼い頃の友達関係や、どうやって学んできたかなどを手話で語ってくださった（同時通訳者あり）。

②手話体験

・あいさつ（おはようございます、こんにちは、さようなら）の練習。

・動物や果物などをどのように手話で表現するかをクイズ形式で行う。

・自分の名前を手話で覚える（５人ずつのグループに１人サークルの方が入っていただき、教えていただいた）。

（5）成果

○手話自体は、今までの学習の中で簡単なあいさつや歌などで体験したことはあったが、聴覚障がい者の方の話を聞くのは初めてであり、どのように手話が使われているか、その思いなどについても理解することができた。

○この福祉体験学習に併せて、国語「だれもが関わり合えるために」や総合的な学習の時間「福祉について考えよう」で、点字やユニバーサルデザインなどの学習を進めていた。学習に「体験」が加わったことで、より深い学習ができた。学習後、多くの児童が図書室から借りた手話に関する本を読んで手話について学んだり、手話を覚えようとしたりしていた。

〈児童の感想〉

・手話ができたら、いろいろな人と関わるはばが広がる。

・手話は難しいものではないことが分かった。

特別活動
「人権教室」

横浜市立上菅田小学校

単元（題材）目標

〇私たちの周りには、いろいろな人がいることを知り、自分も相手も大切にしていこうとする心をもてるようにする。

〇聴覚障がい者は、どのような手段で気持ちを伝え合っているかについて知る。

（１）実施時期　11 月末

（２）対象（学年等・人数）　第２学年校児童　130 名　第２学年担任教諭　４名

（３）指導者（教諭・外部講師等）

外部講師　１名

第２学年担任教諭の友人で、子どものための手話教室を主宰していた人がいたため、その方に講師を依頼した。

（４）実施内容

①講師の先生のお話を聞く

・わたしたちの周りには、いろいろな人がいて、みんな幸せに生活したいと思っていることに気付く。

・聴覚障がい者は、どんなことに困るのか、どのような方法でやりとりをしているのかについて知る。

②手話体験

・手話表現に親しみ、体験する。人と関わるときに特に大切な言葉として、次の５つを体験する。

「おはよう」「ありがとう」「ごめんね」「どうしたの」「だいじょうぶ」

（５）成果

身の周りにいる人はみんな自分と同じではなく、いろいろな人が生活しているということを改めて考えていた。その中で、聴覚障がい者という、耳の聞こえに障がいがある人がいることを知り、手話に親しむことができた。呼んでも振り返らない人がいたとき、無視されたと思いがちだが、もしかしたら聞こえないだけかもしれない。自分の思い込みではなく、相手の立場はどうだろうと考えることの大切さに気付くきっかけとなった。翌日からは、廊下で会うと手話であいさつをしたり、他の手話も知りたいと質問したりする姿が見られた。

特別活動
「１年生をお祝いする会」

葉山町立一色小学校

単元（題材）目標
○１年生をあたたかくむかえ、なかよくなる。
○１年生に一色小の楽しさをたくさん見てもらい、一色小を好きになってもらう。

（１）実施時期
４月中旬

（２）対象（学年等・人数）
第２学年　76 名

（３）指導者（教諭・外部講師等）
第２学年担当教諭　４名

（４）実施内容
２年生の国語教科書の詩「たんぽぽ」（まど・みちお作）を学習して、春のあたたかさややさしさ、楽しさなどを味わった後、「た・ん・ぽ・ぽ」の言葉でアクロスティック作文（あいうえお作文）を作った。その際、１年生を迎えた喜びが伝わるような言葉を精選して組み合わせ、実行委員が１年生への呼びかけを創作した。呼びかけの中に歌を入れてお祝いしたいという児童の願いを実現するために、「たんぽぽ」の歌を歌うことにした。さびの部分に手話を加え、それ以外の部分は踊りを創作し、歌と振り付けでお祝いの気持ちを表した。

（５）成果
○国語・音楽・図工・生活科・学活など、合科的な学習を通して１年生へのお祝いの気持ちを表すことにより、児童の実態に合った活動を行うことができた。
○話や創作の振り付けを加えた歌を歌ったことで、２年生児童はより楽しい気持ちやうれしい気持ち、あたたかさを味わい、また表現することができた。
○つどいの後も音楽の授業で継続して歌ったことで、曲が流れると自然に手話を行うことができるようになった。手話を加えた歌が児童の心に深く刻まれており、よい教材となった。

特別活動
「手話教室」

愛川町立田代小学校

単元（題材）目標
神奈川県手話推進計画(5 年間計画)をふまえ、手話を知り使うことで、手話への理解を深めることにつなげる。手話を使って生活している人たちの言語や文化に対する理解を深める機会とする。

（1）実施時期
11 月 6 日（月）

（2）対象（学年等・人数）
第 2 学年 1 組　24 名

（3）指導者（教諭・外部講師等）
外部講師：町内ボランティア　5 名　　町社会福祉協議会　1 名　　本校教諭　3 名

（4）実施内容
①聴覚障がいの方から「これは何でしょう？」と手話をしていただきながら、単語を当てる。
②手話体験(学級全体)
・講師 1 名(聴覚障がいの方)、ボランティア 4 名、社会福祉協議会職員 1 名
・簡単なあいさつ
・「まあるいいのち」の歌の練習
手話は動作と表情を上手に使い、表現することが大切ということを学んだ。

（5）成果
○聴覚障がい者の方が一人参加してくださったことで、コミュニケーションツールとしての手話体験ができ、「手話とは目で見る言語」であることの理解を深めることができた。
○手話の学習を通して、多言語が共生する社会の一員としての広い視野を持てる機会となった。

（6）その他
○保護者にも参加していただけるように、学校へ行こう週間に実施したところ、保護者数名の参加があった。
○人権福祉週間中のピアノコンサートで歌う「まあるいいのち」の手話を練習した。

特別活動
「手話教室」

藤沢市立小糸小学校

単元（題材）目標

○様々な障がいについて理解を深め、お互いを尊重できる思いやりの心を育てる。

○手話教室で学んだことを振り返り、今までの自分の考えや生活を見直すとともに、自分にできることを実行しようとする。

（1）実施時期

10 月下旬

（2）対象（学年等・人数）

第４学年　42 名　　小学校教員　２名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第４学年所属　２名

外部講師：社会福祉法人　光友会　２名

（4）実施内容

①手話体験：各学級で手話実践

・各学級に講師２名（聴覚障がいの方、通訳の方）

・簡単な会話（あいさつ、自分の名前等）

・手話に関する基本的知識

・簡単な手話あてゲーム

・指文字による五十音の表し方

・手話における拍手の仕方

②お礼：学年で「世界に一つだけの花」を手話と歌唱で演奏

③振り返り：各学級

（5）成果

○聴覚障がい者の方々から普段の生活の話を聞くことによって、聴覚障がい者に対する理解を深めることができた。

○手話に興味をもち、手話で簡単な挨拶や自分の名前を伝えられるようになった。

（6）その他

３年次に学習した手話の歌を、実際に聴覚障がい者の方に披露することができ、子どもたちもとても嬉しそうだった。

特別活動
「手話教室」

大和市立柳橋小学校

単元（題材）目標

○障がいのある人と直接触れ合い、活動することを通して、共に生きる仲間として理解しあい、自分にも何かできるのではないかという意欲をもつ。

○手話という手段について理解し、相手のことを考えながら、進んでコミュニケーションを図ろうとする。

（1）実施時期　10 月 19 日

（2）対象（学年等・人数）　第４学年　89 名　小学校教員　７名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第４学年担任　３名　外部講師：大和市ボランティアセンター講師　６名

（4）実施内容

① 講師の話：「聴覚障がいについて」（各学級）

・聴覚障がいの方が困ること。（手話通訳あり）

・自己紹介（あいさつ、学生生活の中で取り組んだスポーツ、現在の職業など）

②手話体験：各学級で手話実践

・各学級に講師１名（聴覚障がいの方）
　ボランティア１名（「大和ボランティアセンター」の方）

・簡単な会話（自分の名前、学校名等）　・手話に関する基本的知識

・ジェスチャーによるゲーム　・手話における拍手の仕方

◎ 「手話教室で学んだことを今後の生活の中でどのように生かしていくか」という視点から振り返る。

※ 自分から相手に伝えようとする気持ち、また、相手が伝えようとすることを分かろうとする思いやりの気持ちを大切にするような指導を心がけた。

（5）成果

○手話についての理解と思いやりの気持ちを深めることができた。

○手話に興味をもち、手話で簡単な挨拶や自分の名前を伝えられるようになった。

〈児童感想　一部抜粋〉

僕は手話学習をやってみて、最初は静かでやっぱり言葉がないと寂しいなと思いました。でも、みんなに手話を教えているときや、ゲームをやっているときはたくさん笑っていたので、やっぱり耳が聞こえなくても、周りの人が親切にしていれば、耳が聞こえない人ともいっしょに笑い合えるんだ、ということが分かりました。僕はこれからいろいろな人に親切にしたいと思いました。

耳の聞こえない人は不便なことがたくさんあるとわかりました。でも、いいこともあると思いました。なぜなら、優しい人にたくさん出会えるからです。友達になってくれたり、「電車は来ないよ」などと教えてくれたりする人がたくさんいます。だから、助けてあげたいという気持ちをもって困っている人を助けたいです。

（6）その他

総合的な学習の時間において、年間を通じて福祉学習に取り組んでいる。

特別活動（学校行事）
「HANDSIGN 学校公演企画」

平塚市立大原小学校

単元（題材）目標

○手話を取り入れたパフォーマンスを体感しながら、「耳が聞こえないことも一つの個性だ。」という考え方に触れる。
○手話ダンスを通して、身体を動かすことの楽しさを味わう。

（１）実施時期　11 月 29 日（水）５校時（13 時 30 分～14 時 30 分）

（２）対象（学年等・人数）　全校児童　245 名　保護者　13 名　教職員

（３）指導者（教諭・外部講師等）　ＨＡＮＤＳＩＧＮさん　５名

（４）実施内容

①ＨＡＮＤＳＩＧＮ紹介
②プロモーションビデオ（紹介）
手話ダンス（ＨＡＮＤＳＩＧＮによる手話とダンスを見る）
寸劇を通じて手話を学ぶ。
プロモーションビデオ（僕が君の耳になる）
手話ダンス（手話を教えてもらいながら、一緒に踊る）
手話ダンス（曲の途中で音を遮断するがダンスと手話は続け、耳の聞こえない人はどのような状態かを体験し、気持ちを思いやる。）

（５）成果

○手話を学びたいという気持ちを育てることができた。
○手話を学ぶことで将来耳が聞こえない人の役に立ちたいという気持ちを育てることができた。

（６）その他（感想）

○手話の体験や一緒に踊ったりするところがあってとても楽しかった。私はとくに「僕が君の耳になる」が良かったです。この歌の手話を覚えて歌えるようになりたいです。
○私の将来の夢は図書館司書になりたいので、耳が聞こえない人が来たときに手話が必要になると思うので勉強になりました。
○映像を見て、耳が聞こえる人と聞こえない人のとてもいいお話があったので「こんなこともあるのだな。」と思いました。私の夢はアザラシの飼育員なので、もし手話ができたらいいなと思いました。
○ハンドサインの人たちは面白いところもあって、優しい気持ちもあって、すごく好きになりました。歌も良くて一回見ただけでファンになりました。手話をやりながら歌やダンスをすると耳が聞こえなくても伝わるのでいいと思いました。
○手話の必要性は以前から感じていましたが、なかなか覚えようとまではいきませんでした。歌でもダンスでも手話が生かされることは今回の公演で知り、広がるように思います。不自由な人たちと共生していく上で、福祉への思いがますます広がっていくことが、みんなの幸せにもなりますね。ありがとうございました。〈教職員〉
○このような形で福祉を身近に感じることはとても貴重だと思いました。今回の公演をきっかけにして手話に興味をもつことや、困っている人を助けようとする気持ちが育つと思います。〈教職員〉

課外活動（パワーアップタイム）「手話ソングを歌おう」

横須賀市立諏訪小学校

単元（題材）目標

○「手話」というコミュニケーション手段を知る。
○よく知っている歌を手話をしながら歌うことにより、手話を身近に感じ、自然に使えるようにする。

（1）実施時期

週１回（主に木曜日・10 分間）　通年

（2）対象（学年等・人数）

特別支援級（あさひ級）　18 名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校特別支援級担任　５名　　特別支援介助員　１名

（4）実施内容

○児童のよく知っている曲を選定し、歌詞の単語の手話表現を一つ一つ練習しながら曲を歌う。
○１～２ヶ月かけて一曲歌えるようにする。

（5）成果

○「世界中の子どもたちが」「小さな世界」「ドレミの歌」「手のひらを太陽に」「人間ていいな」の５曲を、手話を交えて歌えるようになった。
○手話表現が、言葉の意味と大きく関わっていることを感じ取ることができたと思われる。
○日常会話の中で「手話ではこうするんだよね。」などと話す児童もいて、手話を身近なものだと感じる児童もいた。
○この取組をきっかけとして、手話について図書室で調べたり、指文字を覚えたりする児童もいた。

（6）その他

保護者の参観の機会に全員で１曲発表する機会をもった。

道徳
「全校道徳」

南足柄市立岡本中学校

単元（題材）目標
○学校教育目標のひとつである「共生」についての理解を深める。
○自他共に尊重し協働して自己を最大限に発揮できる生徒を育む。

（1）実施時期　　５月上旬

（2）対象（学年等・人数）　　全校生徒　388 名　　教職員　30 名

（3）指導者（教諭・外部講師等）　　学校長　　外部講師　３名

（4）実施内容

①　～4/26（水）　　実態調査　全校生徒対象に記名で実施。
特に「共生」についての理解度をはかる。

②　～5/2（火）　　学校長が記載内容確認

③　　5/8（月）　　全校道徳の実施。
学校長：実態調査に基づいた内容の講話。
講　師：手話通訳及び白丈や車椅子生活者の話。
全校道徳後、各学級で「振り返りと今後」を記入させる。

④　5/8（月）以降　　生徒に記入させたものは、事後指導で活用。
担任 → 主任 → 教頭 → 学校長 → 担任へ

（5）成果

学校教育目標にもあげた「共生」について、教職員と生徒の理解が進み、今後の方向性について共有できた。取組後の振り返りでは、生徒が自分にできることについて考え、自分なりの思いをもっている姿がみられた。

（6）その他

学校だより５月号に、次の記事を掲載し保護者や地域に理解を求めた。

共生社会の実現に向けて

５月８日（月）全校集会で、学校教育目標のひとつである「共生」について全校生徒と考える時間を設けました。▼県の手話月間ということもあり、地域で手話等のボランティアをされている方々にもおいでいただき、私の話を手話で伝えていただきました。併せて、全校生徒に対してもその想いを伝えていただきました。▼また、私からは、共生社会の実現に向けた具体的な事例を示しながら、最後に「**誰もが暮らしやすい社会にするため、あなたができることは何か**」と問いかけました。その後、各教室に戻り書いた生徒の感想からは、一人ひとりが真剣に考えたことをうかがい知ることができました。▼この全校集会をスタートとし、性別、価値観、年齢そして障がいのあるなしに関わらずお互いを尊重できる生徒の育成に努めて参ります。▼各ご家庭におかれましても、身近な出来事や新聞等の記事からお子さんに考えを聞くなどし意識を高めていただけると幸いです。

総合的な学習の時間
「福祉文化祭へ向けた取組」

三浦市立初声中学校

単元（題材）目標

○「いのちのうた」を通して、一人ひとりが自他の「いのち」について考え、大切にしていく心を養う。

○ボランティア実践や手話学習を通して、より良い社会の実現に向けて、自分ができる支援について考えることができる。（３年ボランティアコース）

（１）実施時期

６月～７月

10 月上旬～文化祭

（２）対象（学年等・人数）

全学年　258 名

第３学年　ボランティアコース　30 名

福祉文化祭当日来場者

（３）指導者（教諭・外部講師等）

全職員

市内手話サークル「ともしび」６名

（手話通訳者１名、聴覚障がい者１名）

（４）実施内容

①「いのちのうた」の歌詞を考える（全校）

② 手話サークルによる講演・手話体験（３年ボランティアコース）

・難聴の種類、コミュニケーションを取る方法、日常生活で困っていることへの補助の仕方等

・簡単な挨拶、感情表現、「３６５日の紙飛行機」・「いのちのうた」の手話

③「いのちのうた」の練習（全校）

・３年ボランティアコースの生徒を中心に、「いのちのうた」の手話を全校で指導

④ 福祉文化祭での「いのちのうた」発表（全校）

・１～３番は各学年で歌い、４番は手話付きの全校合唱

（５）成果

○講演や体験を通して、聴覚障がい者への理解、自分たちにできる支援の仕方や考え方について学ぶことができた。

○全校で手話の指導をすることで、学んだ内容を全校で共有することができた。

○全校で「いのち」について考える機会をもち、考えたことを手話を用いて、保護者や地域の方々に発信することができた。

（６）その他

本校では、総合的な学習の時間の中で、全学年「福祉」について継続的に学んでいる。また、各委員会でも「福祉」を意識した取組を多々行っており、その成果を文化祭で発表している。そのことから、文化祭を「福祉文化祭」と呼んでいる。

総合的な学習の時間　福祉体験
「手話」の学習（７講座中の２つ）

横須賀市立久里浜中学校

単元（題材）目標

○福祉学習を通して、様々な人と意欲的・自主的に関わる機会から、他者を思いやる心を育てる。

○福祉体験と講話を通し、「福祉」に対しての関心を高め、実際に見聞きし、体験することで、自分にできることを考え、誰もが住みよい社会を考える機会とする。

（１）実施時期

11 月 11 日（水）・12 日（木）

（２）対象（学年等・人数）

第１学年　①80 名（40 名×２講座）
　　②40 名（40 名×１講座）

（３）指導者（教諭・外部講師等）

①本校教諭　２名・外部講師　２名
②本校教諭　１名・神奈川県立明光高等学校教諭　１名

（４）実施内容

①手話の学習：本校教室で手話実践
- 講師１名（聴覚障がいの方）、ボランティア１名、本校教諭２名
- 簡単な会話（あいさつ、自分の名前等）
- 手話に関する基本的知識
- 手話における拍手の仕方
- 聴覚障がいの方の生活の工夫

②手話の学習・明光高等学校で手話実践
- 明光高等学校教諭（聴覚障がいの教諭）、本校教諭１名
- 簡単な会話（あいさつ、自分の名前等、道案内）
- 手話に関する基本的知識
- 気持ちの表し方
- 災害の時の対処方法

（５）成果

○聴覚障がいの方に講師をしていただいたため、手話に関する基本的な知識や聴覚障がいの方に対する理解を深めることができた。

○手話に興味を持ち、手話で簡単なあいさつや単語、自分の名前を伝えられるようになった。

〈生徒感想　一部抜粋〉

○最初に手話の意味、何のために誰のために使うのかを教わった。たくさんの種類の手話を知った。福祉に興味があるから明光高校に行きたい。手話をできるようになりたい。

○日常で使えるような「ありがとう」や「どういたしまして」を教えてもらったので、時々使うようにして忘れないようにしたいです。そして手話を家族や友達にも伝えて、みんなで手話ができるようにしたいです。

○今回、初めて耳の聞こえない方に実際会って、いろいろなことがわかりました。表情一つで相手がどう思うかは違うので、人と接する時は表情に気をつけたいと思いました。

総合的な学習の時間
「福祉体験」

横須賀市立大矢部中学校

単元（題材）目標

①さまざまな体験や人とのふれあいを通し、相手の立場や気持ちを理解し行動する力を伸ばす。
②誰もが安心して生活できる社会を考える。
③社会の一員として、どのように関わりながら生きていくのかを考える。

（1）実施時期

1 月 30 日（火） 5・6 校時

（2）対象（学年等・人数）

第 1 学年　72 名（36 名×２コマ）　※福祉体験５種類の中の１つとして実施

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第１学年所属２名
外部講師：聴覚障がい者１名（横須賀市聴覚障害者協会）
　　手話通訳者１名（横須賀手話指導勉強会）

（4）実施内容

★第１学年 138 名が班ごとに分かれ、５つの講座（手話・点字・車いす体験・ブラインドウォーク・シルバー体験）のうち２つを体験。50 分授業２コマで、手話体験は６班（36 人）×２コマ＝12 班が教室で学んだ。

◆手話体験
・簡単な会話（あいさつ、自分の名前など）
・指文字もよる五十音の表し方
・手話に関する基本的知識
・質疑応答

（5）成果

○耳の聞こえない人の大変さなどを聞いて、口話と身振りでのクイズと手話の練習をした。耳が聞こえないのは見てわからないことだけど、それで誤解を生んでしまうことがあるということなので、もっと相手のことを考えるのが大切だと思った。耳が聞こえなくても相手に気持ちを伝える方法がたくさんあってすごいと思った。人とのコミュニケーションはとても大切だから、伝えようという気持ちをもつて相手と接することが大切だと思った。
○手話や口語、身振り、触手話などでコミュニケーションをとりました。いろいろな手の形があって覚えるのはとても大変です。講座が終わったあと、講師の方に教えてもらった「ありがとう」の手話をやったら笑顔で返してくれて、とてもうれしかったです。
○災害の時など本当に困るのだろうなと感じた。その時は助けたい。

（6）その他

５つの講座の学習資料を一つの冊子にまとめ、全員に配付し、読む時間をとった。また体験した内容は廊下に掲示して交流するので、班として体験できなくても少しでも理解につながることを願っている。

総合的な学習の時間
福祉体験～手話体験コース～

厚木市立玉川中学校

単元（題材）目標
福祉に関する体験学習を通して、将来の福祉社会を担うために必要な、思いやりの気持ちや助け合いの精神を伸ばす。

（1）実施時期　　11 月上旬

（2）対象（学年等・人数）
第２学年　39 名

（3）指導者（教諭・外部講師等）
本校教諭：第２学年所属　１名
外部講師：厚木市手話サークル「あゆの会」より（聴覚障がいの方１名含む）　２名

（4）実施内容
1．講師の方による手話での自己紹介
2．手話についてのお話　「手話ってなに？」
3．手話体験（講師の方とともに手話を実践しました。）
　①伝えてみましょう　　②手話で表す単語
　③聞こえない人と話す方法　　④自己紹介をしてみよう
4．聞こえない人達の生活についてのお話（日常の生活や今と昔の違いなどを聞くことができました。）
5．質疑応答

（5）成果
○「耳が聞こえない人の大変さ、そしてそれを乗り越えたすごさ、耳が聞こえない人とのことを理解してそばにいる優しさなどをじかに感じ、とても心があたたかくなりました。手話は耳が聞こえない人と聞こえる人をつなぐとても素敵なものだということにあらためて気づかされました。」
○「手話には触れたことがなかったから楽しかった。手話も一つの言語として広めることで耳が聞こえない人への理解が深まると思った。」
○「最初に講話して下さった方は、普通に耳が聞こえているのかと思いました。町中にいると普通の人だと思うので、とても不便であり、危険が伴うんだなと思いました。病院などでは、耳の聞こえない方の工夫をしているけど、町はまだまだ住みにくいと思います。もっと誰もが住みやすいと思える町にしていきたいです。」

など、参加した生徒達からの感想が寄せられた。障がい者とふれあう機会として、手話での会話の様子や聴覚障がいのある方の言葉にならない言葉や喋り方などにふれあっただけでも、生徒達には刺激的で衝撃的であった。本校ではインクルーシブ教育を推進し、この学習は福祉学習の一環として行っているので、この手話体験を通して、障がい者への理解や共生について考える良いきっかけになったと思われる。今後もぜひ継続して続けていきたい。

（6）その他
生徒の感想の中には「自分は障がいがなく生まれて良かった」というような記述も一部見られ、ねらいに十分に到達できなかった生徒もいたように思われる。思いやりや助け合いの気持ちを、学校生活全般を通して３年間かけて少しずつ育成する必要性を感じた。

総合的な学習の時間
「福祉体験」手話グループ

平塚市立山城中学校

単元（題材）目標

○車いす体験、高齢者体験、誘導法体験、手話、点字の中から１つ選択し、福祉について理解を深め、思いやりの心を育てる。

○車いすバスケットボールの選手を招き、実際に車いすバスケット体験に参加させてもらい、多様な生き方について学ぶ。

（１）実施時期

10 月～12 月

（２）対象（学年等・人数）

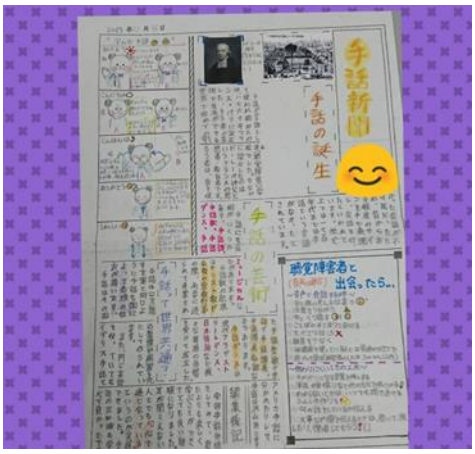
第２学年　16 名

（３）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭　：　第２学年所属　２名

外部講師　：　６名　（市内の手話サークルより）

手話以外の講師　他多数



（４）実施内容

①事前指導：講演会「福祉について」（学年全体へ・社会福祉協議会の方より）

②グループごとの事前指導：手話グループ対象に映像資料やプリントを使い、指文字、簡単な挨拶、数字、自分の名前などについて実践した。

③手話体験：講師を招いて、手話実践（11 月 16 日）

・講師６名（うち１名聴覚障がい者の方）

・聴覚障がい者の方のお話（聞こえなくなった理由・日常生活・家族について）

・簡単な挨拶・会話・似ているけど違う意味の表現・全員の名前（苗字）

・質疑応答（あらかじめ用意した質問をしました）

④まとめ：お礼状作成・新聞作り（個人）

（５）成果

○手話は手を動かせば伝わると思っていた生徒もいたのだが、実際に手話で会話する中で、表情や気持ちを伝え合うことが大切だと気付くことが出来ていた。

○自分の名前（苗字）の手話表現を知り、嬉しそうにしている生徒が多かった。

（６）その他

今後も継続して福祉について触れる機会を持てるように意識していきたい。

総合的な学習の時間
福祉（手話教育）について

相模原市立大野台中学校

単元（題材）目標

○生徒一人一人が地域で障がいのある方々とのふれあいをとおして、人の心のあたたかさや優しさにふれ、他者へのいたわりの気持ちをもつ。
○共に生きる社会の一員として自分を生かしながら、自分にできることを実践していこうとする態度を身につける。
○福祉の問題を自らの問題として受け止め、これからも積極的にかかわろうとする気持ちをもつ。

（１）実施時期

10 月～11 月

（２）対象（学年等・人数）

第１学年　108 名（福祉体験講座の手話受講者は 18 名）

（３）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第１学年所属　５名
外部講師：市内聴覚障がい者の方　１名　　手話通訳の方　１名

（４）実施内容

【学年全体】
①福祉ガイダンスで「福祉とはなにか」を考えた。
②［障がい者理解促進ＤＶＤみんないいひと～みんなができる心のバリアフリー～］視聴
③絵本「わたしの妹はみみがきこえません」の朗読を聞き、耳が聞こえないとはどういうことなのか、耳の聞こえない人が困っていることや望んでいることなどを考えた。また、自分はどんなことができるか考えた。

【福祉体験講座：手話】
④講演会：「聴覚障がい者の理解」
⑤手話体験：希望者 18 名が手話実践
・簡単な返事の仕方を学んだ。例　（はい、いいえ）
・自己紹介（自分の名字の手話を学び、実際に行った。）
・ジェスチャー（正しい手話が分からないときや、相手が手話がわからない場合、身振り手振りで伝えることを学んだ。）

（５）成果

○手話が特別なものではなく、身近なコミュニケーションの１つとして捉えることができ、楽しく学んでいた。
○（生徒の声）手話は特別なものでとても難しいと思っていたけど、やってみたら以外と簡単だった。

（６）　その他

本校平成 29 年度学校便り「こもれび通信」に手話を記載し家庭配付した。

特別活動（学級活動）
「福祉教室」

秦野市立鶴巻中学校

単元（題材）目標

○手話を学習することを通して、人とのコミュニケーションの大切さを学び、相手の気持ちを理解しようと努力する態度を養う。

○聴覚障がいのある講師の方から直接手話を学ぶことで、障がいのある人に対する理解を深め、共に生きることの大切さを知る。

（１）実施時期　　２月９日（金）８：30～８：45

（２）対象（学年等・人数）　　第１学年　121 名　　教職員　５名

（３）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第１学年所属　５名

外部講師：市内ボランティアサークル「秦の会」　12 名

（各クラス４名　内１名はろう者か難聴者）

（４）実施内容

○ろう者のミニ講話講演（聞こえない人の体験談を聞く）

○「聞こえない」とは、どういうことか考える。

○聞こえない人とのコミュニケーションの方法について理解する。

○手話や指文字の学習をする。（あいさつや名前）

○指文字を使って自己紹介をする。

○今日の学習内容を振り返って、理解を深める。

（５）成果（生徒の感想より）

○手話という言葉は知っていたが、「あ」から「ん」まで指文字があるのは知らなかった。将来のためにも自分の名前くらいは覚えておこうと思った。「ありがとう」という手話はただ単にやるのではなくて気持ちを込めて相手に伝えることが大切だと分かった。

○耳が聞こえない人もみんなと同じように努力して頑張っているということを学んだ。また、手話ができる人がもっと増えてコミュニケーションの幅が広がるといいなと思った。

（６）その他

手話に関する事前学習を１月に行った。３月には事後学習を行う予定。

特別活動
福祉講話「手話」

大和市立光丘中学校

単元（題材）目標
身体に障がいのある人の話を聞き、障がいのある人の気持ちを理解し、思いやりをもって接しようとする態度・行動を育てる。

（1）実施時期　　３月初旬

（2）対象（学年等・人数）
第３学年生徒　308 名

（3）指導者（教諭・外部講師等）
本校教諭：第３学年所属　15 名
外部講師：大和市聴覚障害者協会　８名
　　大和市手話通訳者の会　８名

（4）実施内容
① 委員会の生徒による送迎
・福祉委員の生徒が講師の控室に迎えに行き、コミュニケーションを図る。
②手話体験：各学級で講話・手話実践
・各学級に大和市聴覚障害者協会講師１名、手話通訳者１名が入る。
・簡単な手話講話の学習で手話に関する基本的知識を学び、その後あいさつや自分の名前、漢字の形などを手話で表現する。
・指文字による五十音の表し方を学び、実際に行う。
☆手話を使うときは、言葉を言いながら手話をするように指導した。

（5）成果
○生徒が聴覚障がい者に対しての理解を深め、コミュニケーションは音声言語の他に、手話や指文字の方法があることを学んだ。聴覚障がい者に対する垣根が低くなった。
○生徒の感想として「手話のことを自然な形で学び、あいさつや名前を伝えることができた。」や「難しいことではないのでコミュニケーションの最初の一歩を踏み出していきたい。」などがあった。

（6）その他
毎年、卒業期に開催することによって、落ち着いてより深く講話を聞くことができている。

特別活動（福祉委員会）
できることを「今」やろう

川崎市立南大師中学校

単元（題材）目標

○手話に興味関心をもつ。

福祉委員会では、これまでに行ってきたボランティアの他に、自分達で考えた企画を実践していく自主的活動を推進しています

（１）実施時期　　通年

（２）対象（学年等・人数）

福祉委員　22 名　　全校生徒　364 名

（３）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭　１名

経験のある福祉委員の生徒　３名

（４）実施内容

①４月：新入生歓迎会

福祉委員長が、手話を使って自己紹介をしてから委員会紹介を行う。人の話は「目で見て、耳を傾けて、体ごと話し手の方を向いて聞くものだ」という考えから実施した。

②５月：手話体験

手話月間ということを意識づけるため、専門委員会の時に手話のできる生徒が簡単な手話の挨拶を他の委員に教えた。それを各クラスの福祉委員がクラスの生徒に教えるという時間を設けた。

③7・9 月：指文字展示物作成

指文字による五十音の表し方を、軍手で作成する案が出る。左右や裏表が逆になってしまう苦労等もあったが、周囲と教え合いながら作成した。

④10 月：文化祭展示

文化祭展示の部で、軍手で作った指文字によるクイズラリーを企画。濁音や動かして表す指文字を軍手で作成するのが難しく、「ようこそ」等簡単なもののみ展示した。

（５）成果

福祉委員会では、継続的な活動の他に、自分達で考えた企画を実施できるよう年間計画を作成している。来年度に向けての企画書の中に、「手話を使って劇をしたり、福祉の大切さを伝える。」「簡単な手話を使い、わかりやすく福祉の良さを伝える。」「手話での学年交流。手話をもっと広める活動がしたい。」という案が出てきた。教員側から一方的に教え込むのではなく、福祉委員自身から手話に対する関心が高まり、「自分達も学びたい！」「周りの人にも伝えたい。」「協力して何かをやってみたい。」という意識が芽生えてきている。

来年度以降、講演会の設定や総合的な学習の時間、キャリア在り方生き方教育の中で、できる限り生徒の自主的な活動を意識しながら、手話を使用する人達の理解や言語としての手話に対する意識を高めていけるよう工夫をしていきたい。

特別活動（学校行事）
地域交流体験学習

真鶴町立真鶴中学校

地域交流体験学習の目標

○地域、家庭、学校の連携の一環として、地域の教育力を積極的に取り入れた学習の場とし、集団活動や生活への関心・意欲・態度を養う。
○地域社会の一員としての判断や実践を学ぶ場とする。
○地域に関わる体験を通して、集団活動や地域の生活について発見、理解をする。

（1）実施時期

平成 29 年３月 14 日　９：00～12：00

（2）対象（学年等・人数）

第１、２年生の希望者　13 名
保護者　１名　　教諭　２名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

湯河原町手話サークル“心„
聴覚障がい者　１名
手話通訳　１名　　補助　２名

（4）実施内容

○地域交流体験学習として、地域の方を講師に招き、福祉や芸術等の分野から数講座を開設している。平成 28 年度は、福祉分野の講座として「手話体験」を実施した。
○内容は「聴覚障がいについて」「手話に関する基本知識」や「手話を使った自己紹介や歌」「指文字」等である。

（5）成果

手話を学ぶことを通して、「聴覚障がい」についての理解が深まるとともに、手話に対する関心が高まった。

◆生徒感想（一部抜粋）

・手話も大切な言語の一つということを知ることができた。少しでも手話を知ることで自分のコミュニケーションの方法が増えると思った。
・聴覚障がいのある方にとって手話は生きていくための一つの手段だということが本当によくわかりました。とても心に残りました。

◆講師感想（一部抜粋）

・毎年お招きいただきありがとうございます。神奈川県手話言語条例が平成 27 年に施行されましたので、たくさんの生徒さんに学んでほしいと思っています。
・生徒たちの笑顔が出てきて、とてもうれしく思っています。聴覚障がい者である私にとってありがたいと思います。

（6）その他

地域交流体験学習の講座の一つとして、平成 12 年度より継続実施している。

部活動
「手話部」

横浜市立岡野中学校

活動目標

○手話が言語であることを、活動を通して学び、手話を広める活動を行う。
○聴覚障がいの方々とのふれあいを通して、会話ができたことの喜びを体験し、将来にわたって手話が使えるよう活動している。

（1）実施時期

通年
活動日は週２回

（2）対象（学年等・人数）

第１学年　12 名　　第２学年　７名　　第３学年　３名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：２名　外部講師との連絡調整
外部講師：市内ボランティア２名　　地域ケアプラザ３名
社会福祉協議会３名　　区役所職員

（4）実施内容

①日常活動：「手話」（実践練習）
・手話ボランティアの方からの指導。
②手話体験：手話学習と実践
・ボランティア若干名（外部人材の活用という観点で依頼している）
・手話に関する基本的知識の習得
・日常的な会話の実践
・指文字による五十音の表し方
・流行の歌を手話で歌う手話実践
◎地域行事や街頭キャンペーンなどに参加し、手話を広める活動を展開。

（5）成果

○手話を活用できることで、聴覚障がい者とのコミュニケーションができるようになり、聴覚障がいへの理解をさらに深めることができた。
○手話で歌詞を表現できることで新たな人との繋がりができるようになった。
○学校での「福祉体験活動」の時間では手話の講師役が務められるようになった
○地域ケアプラザや社会福祉協議会主催のボランティアに参加する生徒が増えた。

（6）その他

いろいろな立場やハンディキャップをもつた人々とのふれあいから、違いを理解し合って関わることの大切さ、安心感、自己有用感を高める活動実践ができている。

課外活動
「手話教室」

相模原市立内出中学校

活動目標

○「ともに生きる社会」を認識し、地域社会に貢献する生徒を育てる。
○障がいのある人に寄り添い、人権・福祉に関わる‘こころ’の教育を展開し、慈しみと寛容の心を備える生徒の育成を図る。

（１）実施時期

平成 29 年 10 月 17 日、30 日、11 月 7 日、22 日
30 年　1 月 16 日、30 日、2 月 14 日、27 日

（２）対象（学年等・人数）

本校生徒 30 名程度の希望生徒、担当教諭
地域在住の一般の方々（２つの公民館に案内の掲示）

（３）指導者（教諭・外部講師等）

地域手話クラブのボランティアの方（２名～５名）　※毎回、同じ方に協力を依頼
聾唖のボランティアの方　　社会福祉協議会の協力

（４）実施内容

第 1 回（10 月 17 日）
講師による、「障がい者の理解について」手話の意義など。テキストの確認と手話でひらがなと自分の名前を学ぶ。（講師４名・教師６名・生徒約 30 名・一般 0 名）

第 2 回（10 月 30 日）
講師によるひらがなの復習。簡単な自己紹介の手話を学ぶ。自分の名前、簡単な挨拶や日常の言葉など。（講師３名・生徒 28 名・教師４名）

第 3 回(11 月 7 日)
自分の名前と簡単な自己紹介。生徒同士の簡単な挨拶や対話。
（講師２名・生徒 20 名・教師３名）

第 4 回（11 月 22 日）
聾唖者の方を招いた対話活動。簡単な日常語を介した挨拶と自己紹介の実践学習。
（講師５名・聾唖者１名・生徒 20 名・教師３名）

（５）成果

○体験活動を継続することで、その講習の中だけで手話を使うのではなく、生徒が自信をもって障がいのある人とコミュニケーションをとる勇気を備える学習とすることができた。
○教室開催のための時間の確保、教職員の体制づくりなどに課題が見られる。

〈生徒の感想から〉

「楽しく手話を学ぶことができてうれしいです。手話を使ってたくさんの人と話ができるようになりたいです。」

（６）その他

学校ホームページ、学校便りなどを活用し参加者の募集ならびに活動の紹介を行った。